**令和６年度２回まちづくり懇談会　議事録**

**「船橋ＳＬネットワーク」**

１．日　時：令和６年１０月２３日（水）午前１０時～午前１１時

２．場　所：船橋市役所９階　第２応接室

３．議　題

　（１）防災サロンの開催

　（２）市総合防災訓練の充実

４．議事録

○団体

　それでは、司会進行をさせていただきます平山と申します。よろしくお願いいたします。

　本日は、貴重なお時間をいただきましてありがとうございます。

　まずは、自己紹介させていただきますので、お手元の資料の出席者一覧、この上から順番に、簡単に自己紹介してまいります。

○団体

　防災会議では、いつもお会いしております小澤でございます。代表を務めさせていただいております。よろしくお願いします。

○市長

　どうもいつもありがとうございます。

○団体

　それでは始まりに、団体の概要、活動内容などを代表の小澤から説明します。

○団体

　市長には私どもの団体を十分御理解いただいてはいると思いますけど、近況について簡単に、本当に短時間で御説明させていただければと思います。

　今日は、本当にこの機会を与えていただいてありがとうございます。

○市長

　いえいえ。

○団体

　私どもは、船橋市、習志野市、鎌ケ谷市を活動地区といたしますＳＬ約６０名、１０月の頭の時点で現在６１名、セーフティーリーダーということで登録している団体です。今日は船橋市在住の者８名ということでお伺いいたしました。

　前回、実は平成２７年、２０１５年１０月に、やはり懇談会をさせていただいて、それが設立で９年目の年でしたが、今回、またそれから９年目ということで、改めてまた２回目の機会を設けていただいたということで、ありがとうございます。簡単に活動をお話しさせていただきます。

　私どもは、メンバー一人一人の防災に対する知識や技術の向上を図るということとともに、地域での支え合いの輪をつくろうということを目標に掲げて活動しております。そのため、日頃から定例会を開いて、防災に関する知識、自分自身の知識を深めるということはもとより、例えば２０１９年の台風１５号のときに風水害が起きました南房総市に駆けつけまして、社協さんを含めて支援させていただいたり、昨年は茂原市でも水害に駆けつけて、社協さんの支援をしたり、駆けつけボランティアとして活動させていただきました。

　そして、今年元旦にございました能登半島地震に関しましては、そして９月にも大雨を重複被災されたわけですけれども、私どもＳＬの公益団体としての募金活動をして、活動支援をしていくということにも積極的に取り組んでおります。

　しかし、活動のボリュームとして圧倒的に多いのは、市長御存じのとおり、防災関係の講座とか訓練とかに、私ども、片桐さんをはじめ、ここにいるメンバー全員そうですけれども、講師とかスタッフということで関わらせていただいて、広く市民に防災知識を普及させていただくという活動をやっております。この中には、町会・自治会、公民館、それから社会福祉協議会さん等からの依頼によるいろいろな種類の講座、そして訓練、中には救命救急知識の普及とか、災害ボランティアセンターの立ち上げとかといったものがございます。

　また、船橋市さんからも受託事業といたしまして、地域防災リーダー養成講座、男女共同参画防災講座、そして、先ほどもちょっと出ておりましたけど、福祉避難所の研修というようなことを事業受託させていただいております。また、今年度からは船橋市の応援もいただきまして、みんなで防災という自主企画講座も開かせていただいているところです。

　そして、御存じのとおり、今度、１１月の頭には「ふなばし健康まつり」がありますし、１２月に入りますと市民活動フェアがありますけれども、市長も多分、御参加になると思いますが、その際には私どももいろいろ展示させていただいて、防災知識を普及するということで、市民に広く防災知識を伝えるということをさせていただいている次第です。

　私どもはこのように、地域の防災啓発活動に積極的に参加し、支援を続けておりますけれども、こうした活動の中で、市とさらに連携を含めて、またさらに御支援をいただければということを感じております。今日は具体的課題２つを挙げて、市長と懇談させていただければと思いますので、ひとつよろしくお願いします。

○市長

　よろしくお願いします。

○団体

　簡単ではございますけれども、活動の報告とさせていただきます。

○団体

　それでは、引き続きまして、今回のテーマ、市と市民が協働して防災活動を進めていくということをテーマに提案をしております。

　その前に一つ、その選定理由というところをお話しした上で、取組を各スタッフから説明いたします。

　選定理由としては、防災対策は行政だけではなく、そこに住む市民が積極的に活動して初めて成り立つものです。市と私ども防災団体がタッグを組んで、防災・減災活動を広く市民に広めていきたいと考えております。

　その上で、提案を２つ、今日はさせていただきます。

　まず１つ目、防災サロンの開催について、顧問の片桐からお願いします。

○団体

　片桐です。よろしくお願いいたします。

　先ほど代表から話がありました、市からの受託したリーダー養成講座をはじめとした講座の中で、市の防災施策について分かりやすく市民に伝えるということが、我々の事業の目的の大きな柱の一つとなっております。ただ、まだまだ市の目標とすべき方向性というのが隅々まで伝わっているとは言えないと。様々な事業から見て、そうだなと感じております。

　前回の懇談会の後、数年間、防災カフェを開催させていただきました。いろいろやってまいりますけれども、飲物を提供するというところが難しくて、危機管理課の皆様にはいろいろ知恵を絞っていただいて、市民まつりの中で開催することができました。本当に大きな効果があったと確信しております。

　そこで今回、防災サロンという形で、高いハードルとなっていた飲物を提供するということをやめて、そしてまた、ＳＬだけではなくて、防災に関係する団体とか協会とか、そういうものと一緒になって、できれば１階のロビーに何日間か、パネルの展示だとか相談コーナーを設けて、誰でも気楽に防災について情報を得ることができるように、そういう期間を設けていただきたいと考えております。

　また、市役所に来た市民が、防災について興味を持ってもらうこと、それから、真剣に防災について考えてもらうこと。これが、市の方針をきちんと伝えるとてもいい場になるのではないかと考えております。ですので、こういう方向で書いてある案がございますので、ぜひ御一考願いたいと思っております。

○市長

　私からも話していいですか。

○団体

　はい。お願いします。

○市長

　本当にいつもありがとうございます。市の防災というか、災害への市民の皆さんの周知、いろいろやっていますが、ＳＬさんに本当にいろいろな場面でやっていただいていて、改めて感謝申し上げます。本当にいつもありがとうございます。

　今、片桐顧問からお話があったように、まだまだ、私もいろいろな人と話をしますけれども、能登の地震があった直後というのはみんな関心が向きますが、一月たち、二月たってくると、意識が薄れてしまうので、可能な限り継続的にいろいろなところで、こういった防災に対しての触れる機会があったほうがいいなと私も思います。

　それで、今お話があったように、市役所の１階とか、結構多くいろいろな人が来て、私もあそこの１階の展示物って必ず見ますが、ちょっと時間が空いていると、何をやっているのかと、ちょっと入ってくるという場所なので、これは具体的に危機管理のほうとまた相談をして、またＳＬさんのほうのどんなやり方がいいのかというのをやりたいなと思います。

　さっきお話があった関係する団体というのは、これが私はだんだん最近、分からなくなってきちゃって。

○団体

　ほかの防災フェアに出ておられる方とか、大森課長のほうが御存じだと思いますので。

○市長

　そうですね。こういうのって、ひょっとすると自連協とか、そういった人たちも巻き込んでやったほうがいいのかもしれないですね。

○団体

　防災フェアが自連協の関係ですので、できれば、一般の市民の方々が多く集まっていただく。そこには、あまり町会・自治会の方々が市民防災フェアに多く入っていってしまうと、市民の方々がなかなか入りにくいところもあるので、そういう意味では。

○市長

　専門家、専門というか、そっちのほうがいいですかね。それをまた、ちょっと話をしてもらって。

○団体

　そうですね。

○市長

　ただ、今はどうしても防災の週間とか、その辺の企画物が、役所でやると多いのですが、年に例えば２回とか３回とか、可能な限り、結構やっていくというのもいいかもしれないですね。

○団体

　はい。

○市長

　私も最初に意見を伺ったときに、これはいいなと思ったので、ぜひまた御協力いただいて、一緒にやらせてもらえればと思います。

○団体

　ありがとうございます。

　では続きまして、２番目の御提案です。市総合防災訓練の充実、事務局長の平田から。

○団体

　平田です。いつもお世話になっております。

　来月、船橋市総合防災訓練があります。私どもも地域で避難所運営に関わり、あと、自主防災組織に関わっている人間が多くおりまして、それぞれの地域で総合防災訓練に参加している状況でございます。

　避難所運営委員会が必要だということで、危機管理課の方々は何年も前から、それに向けていろいろ取り組んでいただいております。その中で、リーダー養成講座、私どもが受託しております町会・自治会向けの防災講座で、昨年、一昨年、避難所運営委員会をつくろうと題して、避難所運営委員会の必要性や、実際に避難所運営委員会って、つくって終わりではなくて、災害のときだけが活動ではなくて、それと訓練を連動して、よりよい避難所運営、地域なりの形をつくっていきましょうということを、２年かけてお伝えいたしました。

　そのかいもあってというか、もちろん危機管理課や、地域の自連協の皆様の御尽力もありまして、今、避難所運営委員会が幾つか立ち上がっております。また、うちのメンバーの安成のところのように、これから立ち上げようと画策している、頑張っている地域というのもたくさんあります。

　その中で、せっかく避難所運営委員会が立ち上がりつつある、立ち上がった中で、自分たちで避難所運営の形を考え、それを実際に地域の方に知ってもらう一番の場というのは、講座や研修ではなく、実際の避難所開設訓練、これはまさに市の総合防災訓練は、うってつけの場所ですね。コロナ前は地域である程度、選択肢があって、それで避難所開設訓練をしたいという地域に関しては、避難所開設訓練をしてきたという経緯がございます。昨年、今年、コロナ後、なかなか活動が難しかった部分もあるとはいえ、避難所開設訓練を実施したいと望んだにもかかわらず、実現できなかった地域が多数ございます。

　また、私も、ＳＬであると同時に障害者団体の代表でもございますので、障害者を引き連れて、避難所開設訓練へ参加するような形を取っております。その中で、コロナ後は、地域住民が避難所開設の訓練計画を立てるのではなく、市主導で実施されて、それを地域の方々が運営役として振る舞って、訓練を実施するという形が２年ほど続いております。

　しかしながら、せっかく地域での機運が高まっているところですので、地域の方々が避難所開設の流れを考え、そして、地域の手で避難所開設訓練を市総合防災訓練の日に実施する選択肢をつくっていただきたいなと願っております。もちろん、その日でなくても、学校の御協力があれば開設訓練できるかもしれないですが、実は町会・自治会との活動が疎遠な方というのも地域にはたくさんいらっしゃいます。そういう方々にこそ、市総合防災訓練でしたら敷居も低く、皆さんが参加しやすい。

　私どもがいろいろな地域で避難所運営の講座を実施しております。しかしながら、講座を１０回聞くよりも、１回訓練に参加する、体験することのほうが、はるかに身につくし、考えていただくきっかけになりますね。ですので、市の総合防災訓練をぜひ、地域の方々が望む場合には開設訓練。一律訓練ではなく、その選択肢を増やしていただきたいなと願っております。

　佐藤さんや安成さんは、地域で避難所運営委員会、実際に稼働しているので、そこら辺の肌感覚、発信をお願いしたいと思っています。

○市長

　ぜひ。

○団体

　佐藤です。よろしくお願いいたします。

　私は地区連の防災部長という立場で、地区の中の学校、小学校に全部立ち上げようと。無理なことは分かっていますが、取りあえず今年度に２校立ち上げはできました。３校目の小学校を、今年度中に無理かなと思いつつ、やっています。もう一つは中学校で、校長先生方がすごく協力的で、やりましょうよと言ってくださっているので、地区の中には４つの学校があります。そこを全部、一応立ち上げまして、その後、全体でできたからいいではなくて、活動していきたいなというのがこれからの目標になっています。

　それで、今、平田から話をさせていただきました、訓練の日に何でやりたいかというと、講座とかは役員といった関心のある方たちが出てきてくれます。でも、この日、総合訓練の日は、例えば町会の声かけで、あまり関係ないと言ったらおかしいですが、引っ張られて来る方たちも結構いらっしゃいます。

　そういう方たちに対して、現場で実際に避難してきたときって、こんな感じだよというところを、多分、運営するほうはとても大変だし、果たしてどこまでできるかなというのは全然分からないので、受付前に、みんな学校へ来たらすぐ入れると思っている方も結構いらっしゃるので、そうではなく、中をちゃんと点検して、その後、ちゃんと並んで登録して入るよとか、学校は子供たちのものなので、どこまでちゃんと使えるか、どこなら大丈夫か、それも学校側とちゃんと折衝しなければ駄目な場所だというか、そのようなもっと現実的な、本当に災害が起きたときにどうなるかということを、一般の人たちが来た場所で、分からないなりにも形として、こうだというのをやれたらいいなというのが私の。むちゃな話かもしれませんけど、よろしくお願いいたします。

○団体

　安成さんも。

○団体

　安成です。自治会としての仕事をしていますが、ほかの地区についてよく分かりませんが、自治会長は非常に運営委員会をつくることには前向きで、例えば今回、１１月２４日にその準備をしましょうというお話をして、いろいろ努力はされていますが、結局、個別の自治会長に声をかけて、お隣の自治会長に声をかけて、じゃあ、やりましょうかというような進め方になっていて、それで本当に運営委員会として名のっていいかどうかと感じています。

　校区にはもっともっと自治会もあるので、ですから１１月２４日は、近隣の、当然校区はほかのも入っていますから、また、町会の方も何人か昨年はお見えになっているので、そういうときに、まずはそれをきっかけにして、運営委員会立ち上げの準備をしませんかと話す非常にいい機会なので、ぜひその場所を使わせてくださいというようなお話を、何度か危機管理課さんにさせてはいただいていますが、９時から１２時まではというか、９時半から１２時までですけれども、個別の対応は難しいというお話を聞かされているものですから、小学校長さんは非常に前向きにおっしゃっているので、何とかもう少し工夫して、その場を使って、まずは近隣自治会を共通認識に立っていただくという場にできないかなと努力しているところです。

単独の自治会として動くには限界があるなと思いますので、そういう場を活用して、本当は地区連も含めてだと思いますが、そういう話合いができればいいなと思っているところです。

○市長

　ありがとうございます。

○団体

　今、２人事例をお伝えしたのは、地域ごと、必要なニーズというか、やりたいことというか、目下の課題というのはそれぞれちょっと違うわけです。

　市総合防災訓練という日が決まっていて、市としても防災訓練をする。もちろん、ノープランのところも多く、何も活動できていないところも多く、そういう地域に対しては、市からのプランを実際にやっていただいていいと思うし、それでもやったほうがいいと思いますが、個別に、今この時期にこれをやりたい、これを今、みんなが、ほかの町会が集まるこの時期だからこそ、ここで避難所運営委員会の検討をしたいとか、避難所開設を実際にやってみたいというニーズに対しては、できれば柔軟に対応していただきたいなと思っております。

　市としても、もちろん私ども防災団体としても、地域の方々も、目的にしているものは一緒です。災害時の生活再建、被災者への救済、救援、そこの目的は一緒ですので、何とかタッグを組んで、協力し合ってやっていきたいと思っております。

　以上です。

○市長

　ありがとうございます。

　平田さんから、それぞれの地域で課題が違うし、意識も違うということですね。これは危機管理と後で、講師を含めてまたやり取りしますけど、多分ベーシックなものって、総合防災訓練なので、これはやってほしいというものは、やっぱり行政なので、そういったものがありますが、ただ、避難所運営委員会の立ち上げ、今年１月の能登半島の後で、自連協の早川さんとお話をしたときに、このタイミングを逃さないで、運営委員会を立ち上げる動きを自連協としてもやっていきたいという話がありました。

　これは、今年はもうやり方が決まっちゃっているから、来年以降、次回のやつと、確かに総合防災訓練って、町会で誘われて、ふだん全然意識のない人が来る場所なので、逆にそういう人たちが認識をしてもらうには本当に大事な場所だし、そういったところで避難所運営委員会というのも、こんなことやっているというのが分かってもらえるといいと思うので、これは十分検討というか、どういった形が一番、地域の要望を吸い上げながらコラボできるのかという。

　安成さんがおっしゃっていたのは、確かにそうですね。一自治会が、防災部会が言っても、学校は非常に多くの町会・自治会を抱えているので、アプローチの仕方を、うちの危機管理のほうとも話をして、うちの市としては、今回、公室長とも危機管理とも話をして、とにかく可能な限り早く立ち上げようということでいるので、その辺はまたお話を伺って、いろんなところに声のかけ方、ほかのところでどうしているのか、またやり取りさせてもらえればと思います。

○団体

　まだ個別で、中で調整している段階で、隣の町会長さんなんかともお話をする機会を持ちましたが、向こうの町会長さんたちも１年で替わり、この話を町会の中に持っていって、若い人とかに話してくださいねというお願いしますが、もうちょっと理解しないと下に落とせないとかという話もあって、なかなか広まっては、もうちょっと若い人が来てくれるような感じには、なかなかなる感じがしないものですから、ああいう総合防災訓練なんかの場だと、町会役員レベルじゃなくて、もうちょっといろんな人が来てくれると関心が広がるかなと思いますが、本当にいい機会だと思います。

○市長

　ほかのところで、外の幾つか調整のあるところでまとめて、立ち上げる。

○団体

　はい。以前、小学校だけでやろうとしまして、それはコロナ前の話ですが、訓練の後、皆さん最後に集まって、反省会みたいな時間が最後にあります。そのときに集まった方たちを集めて、南小は一回つくろうという、役員名簿までは作りました。

　そこからコロナに突入しちゃって、解散というか、訳分からなくなってしまいまして、地区連の防災部長が入れ替わるような状況になってしまいましたので、じゃ、私、やってもいいかなと思い、そこでやはり地区連の力を借りないと、一つの学校、一町会でつくれるわけじゃないので、地区連に入っている町会をまず固めて、それから、地区連に入っていない町会さんも学校には避難するところもあるので、おいおい声をかけていくというような、だんだん広げていくような形でなければ難しいかなと私は、最初、小学校を手がけた、始めたときから考えると、やっぱり地区連の力は使ったほうがいいと思います。

○市長

　そうですね。最終的に地区連の理解がないと、あんまり頑張り過ぎちゃって、ちょっと浮いちゃうときもあるときがあるので、その辺はまた具体的に、今までのやり方とか、また相談させていただければと思いますので。ただ、ぜひ運営委員会の立ち上げとか、平田さんもおっしゃっていましたけど、いろんな意味で、自主的に立ち上げてもらうのが本当は一番いいので、ぜひよろしくお願いします。

○団体

　ありがとうございます。それでは、提案１に関しては、１年に１回ではなく、定期的に。

○市長

　はい。何回かね。

○団体

　３回に分けて実施する。あの場所もいいですしねという率直な御意見をいただきまして、次年度以降、実現に向けて。

○市長

　はい。

○団体

　団体などは、危機管理課の課長のほうに仰ぎながら。

○市長

　分かりました。ぜひよろしくお願いします。

○団体

　２番目の総合防災訓練の充実については、今年度は無理です。それは分かっていますが、次年度以降、それも検討しつつ、やっていこうねという御理解はいただいた。そのほかの委員会の立ち上げについて、それも何かしら、本当なら地元で、だけれども、それが難しい状況も実際あるので、危機管理課を交えながら、地区連を交えながら、立ち上げのお力添えをいただけると。

○市長

　ある意味、地域でこれやりたいという希望が出されるのは、非常に健全な形ですよね。みんな何となく、市がこれをやって言い、頼まれたからっていうほうが多いような気がするけど、自分たちでこれをやったほうがいいよねという意見がいろんなところから出るようになるのは、本当に望ましい形なので、大事にさせていただきます。

○団体

　１番目の単発のものは、それこそ集まれば、展示するもの、アピールするもの、皆さんそれぞれいろいろ持っていると思いますが、防災訓練に関しては、さすがに次年度のものも、恐らく４月ぐらいからどんどん進めていくものだと思うので、早め早めにこちらのほうにも御連絡いただきながら、実現に向けて、ぜひお願いいたします。

　あと３０分ほどありますね。

○市長

　今回、逆に私、伺いたいなと思うことが一つあって。

○団体

　お願いいたします。

○市長

　実は、今年のいろんな災害もそうですが、船橋って今、独居の高齢者が４万７,０００人います。今まで出前講座だとか、いろいろ担当のほうでもやっているですが、意外に高齢者の人、例えば後期高齢者かつ独居でいる人に、こういうふうにしておいたほうがいいですよみたいな、スペシャルな形の講座はまだできていない。

○団体

実を言うと、公民館主催の講座とか、市民向けですけれども、開いてみると、大概は７０歳以上の方になります。なので、私どもが公民館主催等の防災講座をするときには、高齢者向けがスタンダードになりつつあります。

○市長

　そうですね。利用者がそういう層なので。

○団体

　そうですね。むしろ若い方々に伝えるチャンスがないというのが、今、私たちとしては気がかりな部分であったりします。

○市長

　高齢者の人の講座、高齢者の人たちが来たときって、講座の中身って、普通の一般市民等の場合とはちょっと違いますか。

○団体

　一般市民向けであり高齢者向けでもあります。なるべくゆっくりしゃべる、マイクを使う、文字は大きくという形ですね。

○団体

　公民館の寿大学というところがみんな全てありますが、大分、それも幾つかの担当をさせていただいて、そういう方たちもいらしてもらう。手を挙げてもらうとか、声を出してもらうとか、そういうもので寝ないような努力は一生懸命しようとして。

○市長

　例えばなんですけど、高齢者の人って、トイレとかも結構あれじゃないですか。組立てだけじゃなくて、実際に使う訓練、使ってみるという使い方。

○団体

　使い方はお伝えしています。おしっこ入れて。

○団体

　凝固剤も実際に固めてみて、使ってもらって。

○市長

　そうですか。ありがとうございます。

○団体

　目の前で。

　あとは、今、市内には東西南北・中央、５センターありまして、毎年事業がいろいろあります。健康だったり、消費生活だったり。でも、そこに防災というのがないです。

　そこに来ている利用者さんって、独居の方が多かったり、家族の方と離れていたり、でも自分で動ける。交流のためにも、健康のためにもいらっしゃっている方で、日々、お仕事のように毎日出勤しているような方々なので、募集をかけなくても、聞いてもらう場所はある。時間も、北老人福祉センターの場合は、お昼を食べている間なので、３０分ぐらいの短時間ですけど、そのような形で、どのセンターにも発信する場所はありますが、枠がないというのは感じていたところです。今、高齢者というお話があったところで感じたところです。

○市長

　これは、市として連携しちゃったほうがいい。

○団体

　保健センターの。

○団体

　高齢者福祉課ですね。

○市長

　寿大学、そんな感じでやってもらっていますか。

○団体

　そうです。寿大学。

○市長

　分かりました。私が知っていた寿大学とかなり違う。そうですか。ありがとうございます。

○団体

　あと、市民大学にも、防災の講座は今、４つ枠がありますね。ボランティア学科とくらし教養学科、両方にあります。

○市長

　そうか。

○団体

　よろしいですか。平井と申します。

　一般的な防災講座は、確かに平田が言ったように、年寄り向けになっていますが、実際集まる方も、例えば町会なんかのレベルの講座になりますと、ほとんど９０％、７０歳以上の方です。そこで、災害備蓄をどうしたらいいか、トイレをどう準備したらいいかと話しますと、大体やられている。ただ、いっぱい買っちゃったけど、どう使うかとか、分からなくなっちゃっているとか、ありますけどね。

　一般的にはそういう方が、結構その講座に来られていますが、ただ、一つだけ勘違いされていることがあります。私は足が悪いから、何かあったら福祉避難所に行けばいいと。あの公民館は福祉避難所だから、私はそこへ行くよって思っちゃっている人がいっぱいいまよ。ところが、市のやり方がどんどん変わりますよね、状況に合わせて。そういった情報は一生懸命伝えないと、なかなか年寄りって、思っちゃったら駄目ですね。

○市長

　そうですね。

○団体

　そういう意味で、できるのかどうか分かりませんけど、高齢者向けだけの講座というのは区別できるのかな。難しいですけどね。そういうことをすると、また個人情報の問題もあるでしょうしね。ただ、お年寄りで勘違いされている方は結構いらっしゃいますので、そのためには、年寄り向けの講座というのはあってもいいと思いますね。

　ただ、立派ですよ。本当に食料の備蓄なんか、たっぷり持っていますね。

○市長

　それはすごく心強いですね。

○団体

　ただ、そういうところに、講座に来ている方だけであって、かたくなな人、よく分からないという人、じっと家にいる方は、どうだかよく分からなくなりますよね。

○市長

　これは、だから防災だけじゃなくて、市のほうも、行政とかがやる事業とかイベントって、大体同じ人が参加されている。市として一番問題なのは、課題になっているのは、出てこない人をどうやって出てきてもらうかというのが一番課題。これは防災とはまた別の話で、市の高齢者施策もいろんなことをやっていますけど、結局、そういったものがあるのを知らない高齢者の人たち、これは高齢者だけじゃないですけど、その辺はちょっとあれですね。

　でも、逆に。どうぞ。

○団体

　私も今年、初めて敬老会の担当をしまして、自分の町会に８０歳以上が百何人いるなんて、知らなかったです。びっくりしまして、町会の老人会が１つあって、そこに出てくる方たちは元気な方たちばっかりなので、そこで防災講座をやらせてもらったり、それこそ凝固剤をやったり、いろんなことをその会の中で、私もやらせていただいていますけど、来ない人たち、とにかく独居で、玄関にも出てこないというような方たちが、結構いらっしゃる。

　こういう人たちに対して、本当に何かあったとき、どうするのかって。民生委員さんが把握をしているということで、私たちは実際、今回やったので、敬老会の名簿を見て初めて分かった、普通、そういう方たちが町会に何人いて、どうしているかというのは知らないわけですよ。なので、どうするのかという思いがすごく今回ありました。

○市長

　個人情報の取扱いって本当に。でも、本人の利益になる場合は、使えるケースがある。

○団体

　災害時。

○団体

　災害が起こらないと使えないですよね。だから、私たち、大丈夫ですか、こういったものありますかみたいなことを、本当はお伝えしたいけれども、敬老会だからこそ、「お祝いだから」って言えるけど、防災で行っても、多分、開けてくれない、出てきてくれないのではないかという思いはあります。なので、本当にどうしようって、自分の町会の中でどうしようという思いはあります。

○市長

　これは本当に市も今、独居の方で、地域ともとつながっている人はいいけれど、そうじゃなくて、ずっと会社勤めをやっていて、奥さんが先に亡くなっちゃったりしたケースって、本当に誰が、そこにどんな御主人がいるの？　みたいな。

○団体

　いるかどうかも。

○市長

　分からないときがあったりしますよね。これはまた別の意味で、本当に災害が起こったときに、安否確認といっても非常に難しい。

○団体

　よろしいですか。

○市長

　どうぞ。

○団体

　私のところの自治会でも、独居の方が増えてきています。そういう方って、自治会を抜けちゃいます。余計情報が取れなくなる。それで今、民生委員の方とも話をして、そういう方たちを対象に、安否確認どうするのかと。そこが今、悩みですね。

　ちょっとお話が戻っちゃうかもしれませんけど、市の総合防災訓練でサイレンが鳴り、放送がありますよね。あれがある意味で、安否確認をやる一つのきっかけになると思います。

○市長

　それはどういう。

○団体

　結局、私たちの自治会で安否確認を独自にやろうとすると、災害の発生をどうやって知らせるかということが残ります。市の総合防災訓練に合わせてやると、市のほうで防災無線が流れますよね。サイレンも鳴りますよね。ですから、それだとそういう人たちも意識がつくのではないか。

○市長

　そうですね。

○団体

　ですから、さっきの安否確認だと、市の総合防災訓練をうまく今度利用できないかなと、今思っています。

○市長

　そうですか。そうか、独居だと自治会を抜けちゃう。

○団体

　自治会を抜けちゃうケースが多いです。

○団体

　班長さんができないからという。

○市長

　なるほど。そういう意味で。

○団体

　私のところですと、３か月に一遍、班当番というのがあります。もう班当番、回覧を回すぐらいですけど、それと町会費を集金するくらいですけど、もうできないよ、だから辞めるわって。

○市長

　なるほど。そうですか。

○団体

　そうです。ですから、余計、情報が行かなくなっちゃうし、自治会側としても取れなくなる。何かいいツールないかなと思っていますが。

○団体

　先日、地区の民生・児童委員の会で、ちょっと話をさせていただきましが、災害が起きたときには、助けに行かないでくれと。東日本のときには多くの方が、５９人の方が亡くなられたりしているので、事前のときに、自宅の備えをきちんとやっているか確認をして、もしできていないところは手伝ってやってくれというような話をしましたが、顔を毎月、肝腎なところは回っておられると思うので、数が多いので大変ですけれども、見て、事前に、災害のときの備えというのは、民生委員の方々が回るときの一つのお願いというか、お願いしてもらってやることが、自分の仕事がきちんとできるための一つの方法ですよということで、こういうのも伝えていかなきゃ、お願いしていかなきゃいけないことだなとは思っています。

○市長

　ここももう一回改めて、福祉と防災の連携というのを組織としてやっていないと駄目かもしれない。

○団体

　実際に今、講座の依頼が増えているのが、福祉方面が非常に多いです。障害者団体からも。それは私になりますが、あと、福祉避難所について知らない方、平井が言っていたように、「私、ちょっと足が悪いし、安心登録カードに入っているから福祉避難所でしょ？」という方も大勢いらっしゃったりして、あと、民生委員さんとか、介護支援専門員協議会とか、そういったところからも御依頼があります。

　あと、どうやって支援していったらいいのか、そういったお悩み事というのは、地域の福祉に関わる方は大勢、皆さん持っていらっしゃる。どうやって手をつけていいのかが分からないという御意見を非常によくいただいています。

○市長

　これはまた、大分行政のほうも、市のほうで災害対応とか、やっていますけど、ただ改めて、さっき言っていた高齢者の人だけのところに民生委員の人が行ったときに、こういうチラシ１枚でもいいから、渡してもらうと。そのことによって民生委員の人たちも、すごく一生懸命理解してくれるので、その辺はまた市の中でも検討させていただきます。

　これからますます、地域と関わらない高齢の人が増えていく。

○団体

　最近ちょっと調べてびっくりしましたが、令和２年度の国勢調査で、自分の地域の単身世帯は３９％です。

○市長

　３９％。

○団体

　どれだけ若年単身で、どれが高齢か分かりませんけれど、自治会も、単身世帯の人が来ることって、あまり。もちろん、高齢者の元気な人はいいですけれども、先ほど岩崎が言ったように、もう高齢になって、自治会を辞めたいという人も結構、います。そうなると、本当につながりがなくなってしまいますよね。

○市長

　そうですね。多分西側は、若い単身の人たちも多いとは思いますが、ただ、住んでいる人の数から考えると、結構、高齢者の単身の人もかなりいらっしゃると思います。

　高齢者の人の、ほかの自治体で始めて、今後どうなるか分からないですが、事前に、自分が亡くなったときの整理のお金を預けちゃってみたいな、あれも今、中で検討しているようなので、そうすると、そういったときに、ふだん、それまでにもしも地震が来たら、これ、気をつけてくださいねっていうやり方とか、小まめに連携していく必要がありますね。

　あとは今後、今、市のほうでトイレトレーラーとか、こういうのをもうちょっと力を入れておいたほうがいいといったこと、ＳＬさんから見て何かありますか。

○団体

　災害時に、一旦は体育館等の避難所に行くと思いますが、体育館で暮らせない要配慮者問題というのがあって、学校の教室なり福祉避難所なりがありますけれども、基本的には福祉避難所よりは、高齢の場合、介護が必要な場合は入所を最優先にしますが、障害児の場合は、入所対応はできないですし、なるべく早く二次的な仮設住宅、トレーラー住宅とか、ああいったものを、船橋市もたしか協定は結んでいらっしゃると聞いています。

　なるべく早く日常に戻すことが、災害復興の第一歩だと思うので、避難所ありきではなく、復興の第一歩として何が必要かという視点で、仮設住宅というか、復興住宅、二次的な住宅の早い導入というのを検討していただきたいなと思っています。

○市長

　これはだから、一応、計画とかはみんな定めていますが、現実的なことを考えると、かなり解決できていないものがたくさんあるので、ペットの同行もそうだよね。

○団体

　すいません。ペット同行訓練も市総合防災訓練に、各避難所でちゃんと入れてほしいなと願っています。実際にはペットの飼い方とか、避難する前に事前に知っておくこととかいうレクチャーはいただいても、避難所に来たときに、うちのこのペットがどういう扱われ方をして、どこで居住して、自分はどのようにペットの世話をしたらいいのかというのが、メイン校であっても理解が進まない現状だと言われています。避難所開設訓練に関わっているところに関しては、それも含めて、要配慮者も含めて、ペットも含めて、来た方への対応というのも実際にやっております。そこはやっぱり知ってもらういいチャンスかなと。市総合防災訓練は。

○市長

　片桐さん、ほかの自治体とかへ行かれていますけど、そこら辺で、進んだやり方だなと思う何かありますか。

○団体

　ある地区では、地区連の方々がバックアップしているけれども、実際に動く運営委員は、おやじの会のＯＢだとか、それから、若い方とかが中心になって、会社勤めの方が多くて、そういう方々が中心になって動いている。そして、毎月定例会のようなものを開いて、きちんと訓練をやれば反省会をやって、直したものでやってみる。これを本当に繰り返しやっています。

　そういうことができればいいなと思いますけど、１年ごとに会長が替わるところは、次にこの会長が替わったので、今度は連絡をどうしようかとか、そういうことでちょっと困ったりしています。会長同士の連絡がうまくいっていないとか。

　ですので、うまくいっているところはそういう形で、本当に運営委員会をきちんと長くやってくれる人というのをつくっていかないといけないかなと思っています。

○市長

　最初に小澤さんがおっしゃった、会員が増えているというのは、ＳＬ。

○団体

　これは、市のほうのいろんな御配慮があって、今年は中央公民館で、私どものＳＬ認定講座を開くことができたのですが、非常にアクセスのいい場所を、市にも協力していただいて、講座を開ける。そこにまた、非常に興味と関心ある方々が積極的に参加していただいているということで、そういう場がきちんと設けられて、皆さんが来れば、あとは私どもがどれだけ積極的に理解していただいて、加入していただけるか。

　本当にざっくばらんな話、今、船橋市民じゃなくて、東京都の方とか、江戸川区とか、実は全然違うところでも入っているけど、船橋から情報が欲しいということで、私どもの会員に登録される方もいらっしゃいます。

○市長

　そうですか。

○団体

　私どもはそれを許しています。というのは、お互いに情報をいろいろやれるようになれば、まさしくネットワーク、セーフティーリーダーのネットワークでいろんなことをお互いに学び合い、強め合っていけるということですね。

　それで今年も８人、入っていただいたので、１２人ですかね。

○団体

　受講者。

○団体

　受講者は１２人の中で、８人の方。私もいろいろ、私ども自身も講師になったり、いろんなことをやったりして、その場所でいろいろ会話させていただいたりして。

○市長

　基本は、船橋は船橋のＳＬだけど、でも、ほかの自治体の人たちと面的に広がっていくのが一番必要ですよね。

○団体

　はい。はっきり言うと、ＳＬでも、周りに全然仲間がいない地区の方がいらっしゃって、その方々って本当に情報不足で、活動するのも苦労されているというのが実態ですね。例えば、外房の方が市原とか千葉市まで出てきて、活動されている方とかもいらっしゃいます。地元ではなかなか仲間がいないのでということで。

　そういう意味じゃ、船橋は、市の御理解がいただけて、私どもは講座をちゃんと開かせていただいているので、本当に助かっております。

○市長

　いや、逆に行政としては、ずっと時間をかけて活動を続けていただいているので、多分、ＳＬさんという単語はかなり浸透しているよね。

○団体

　もう普通の単語になって。

○団体

　そうですね。ただ、ほかの地区へ行くと、「ＳＬって何？　機関車？」というところが。私どもは逆にそれをつかみにして、スチームロコモティブじゃなくて、セーフティーリーダーだよ、災害のことについて関心を持った人たち同士で助け合うということをやろうとする人、誰でも入れるように、ただ、一応勉強はきちっとしてもらってということを。

　ちなみに、ついこの間、２０日に九都県市防災訓練がいすみ市であって、そこでも、特に中学校の近くだったので中学生が多かったですが、ＳＬの説明をするのにかなり時間を取りました。

○市長

　なるほど。

○団体

　リーダー養成講座を受けられた方で、ＳＬって興味あるから、今度受けてみたいと。じゃ、定例会に来てください。事前に毎月やっている定例会、実技もやっていますけれども、そこに来られるときに来てもらって、それで、９月に講座を受けてもらってメンバーになると。

　それから、事業でいろんなところでやっているところも、見学という形で、聴講で参加してもらって、それで、こういうことをやっている、こういうことを教えないと駄目だということを伝えることができていると思っているので、ですから、事前に仮入会という方もかなりあって、そういう方々は本当に力になってくれる方が多いですね。

○市長

　いろんな人がそういうスキルを身につけてくれるのもいいし、その人たちが増えれば、その周りにいる人たちがそういう意識になっていくので、ぜひぜひ。本当に日々、最初は、もう９年前ですけど、あの頃とまた違って、今って、ＳＬさんがやっている中身をみんなよく分かるようになったし、かなり状況が変わっているので、またいい形で進めていければと思いますので、ぜひよろしくお願いします。

○一同

　よろしくお願いします。

○団体

　それでは、２分前のお時間になりましたので、これにて提案会、懇談会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

○市長

　どうもありがとうございました。

○一同

　ありがとうございました。

──　了　──